

## 不妊治療には微小循環改善薬

**Q** 二十九歳、女性。結婚五年目。初めの二年間は仕事の関係で避妊していましたが、その後も妊娠しません。婦人科の検査ではプロラクチン（乳せん刺激ホルモン）が少し高い程度で特に問題なく、夫の方も異常ないといわれました。治療を受けたところ「お腹（なか）が硬いから妊娠しない」といわれました。どついう意味でしょうか。

**A** 漢方では不妊症に対する種々な薬がある。どれも女性ホルモンの調節や下腹部の血行をよくする薬である。「お腹が硬い」というのは漢方特有の腹診（ふくしん）という腹部診察の所見による表現である。漢方では妊娠しやすいお腹と妊娠しにくいお腹があると説明する。妊娠し

やすいお腹は下腹部全体に弾力があり、押してもやわらかく圧痛がない。

一方、妊娠しにくいお腹のタイプの一つは、下腹部を上からなでると全く弾力がない場合で虚弱体質や冷え性と関連することが多い。当帰芍薬散（とうきしゃくやくさん）や薬用人参を含む処方が選択される。

もう一つのタイプは、下腹部を上から押すとへその下あたりを中心に硬く弾力がなく、痛みが強いタイプだ。硬いお腹は便秘や肥満、月経異常、ストレス、子宮や卵巣などの血行不良と関連して起こる兆候と考えられる。

桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）や桃核承気湯（とうかくじょうきとう）などの微小循環改善薬を用いる。